

ビジネスアイデアの概要

対象：病気やけがで命が危ないあらゆる子どものための「PICU（小児集中治療室）」
課題：医療の質が不均衡、国内でも約**7.9倍の救命率格差**が生じている。
背景：72時間連続勤務などの過酷な環境のもと、少子化で症例数が約65%減少し医師育成が困難化。**22の都道府県に専門医が不在**。
解決策：熟練医のナレッジを搭載するカメラデバイスを開発。ベッドサイドモニタリングを通じた臨床サポート機能と医師の教育機能を提供。

ビジネスアイデアを事業化するための課題

技術課題：**超希少かつ個別性多様性が非常に高い**、これまで**データ化すら困難だった**重症小児領域における視覚言語統合型AIの開発手法の確立
規制・法的・倫理的課題：重症の子ども顔など非常にデリケートなデータ活用における匿名化はじめとする技術と、国内外の個人情報保護法（GDPR、HIPAA等）への適合、患者同意取得プロセスの整備

事業化の見通し

- ・私たちの強みは、**医療AI市場で空白の重症小児のデータ確保が可能**な点
- ・非営利団体で積み上げてきた実績と信頼でCACを抑えながら重症小児領域に新市場をつくる
- ・現在、特許申請中のベースシステムと顔色AIプロトタイプの技術を保有
- ・開発サービスはPICUで「**9割が臨床的に意味がない**」と言われてきた**従来のリスクモニタリングを改善**、10年以上かかると言われる熟練医の育成を支援し、救命格差解消に貢献できる
- ・教育モジュールは無償提供、臨床サポートはSaasモデルで有償提供、保有する希少症例データの利活用に向けたプラットフォーム事業で事業成長を目指す

事業者情報

香西杏子（こうざいきょうこ）

医療編集者、一般社団法人ハートキッズライフリンク／経済産業省REDアンバサダー。2017年に医師だった父が過労で亡くなってから、見たい世界ができたので活動しています。医療者の「ひとつの命もあきらめない」を支え続けることができる世界です。

【チームメンバー】

酒井渉（札幌医科大学、北海道子ども総合医療・療育センター※）／浅井英嗣（北海道大学、※同）／表雅仁（北見赤十字病院）／稲垣大輔（東京大学）



ビジネスアイデア概要図等

